

日本曹達 小田原研究所

学生役員 川村 絃一

日本曹達訪問者（敬称略）

- ・畔柳 歩大／本田研究室
- ・佐俣 萌実／横山泰研究室
- ・田郡 大隆／本田研究室
- ・海地 英生／横山泰研究室
- ・重田安里寿／内藤研究室
- ・露木 俊／湊研究室
- ・片岡 宏平／上田研究室
- ・白石奈々恵／本田研究室
- ・時村 隼人／上田研究室
- ・川村 絃一／横山泰研究室（学生役員）
- ・鳥井 秀治／横山幸男研究室

■概要

毎年行われてきた OB 訪問。今年は例年とは異なる物質工学科 4 年生 62 人中、33 人から日程が合えば訪問してみたいという回答が得られたので、日本曹達小田原研究所と JT たばこ中央研究所の二社を訪問することになりました。

2012 年 7 月 3 日、日本曹達（株）小田原研究所を訪問し、小田原研究所所長の阿達弘之さん（応化昭和 49 年卒）にお話を伺うことができました。阿達さんは卒業後、高岡生産技術所という研究所で 20 年間程、主に有機合成を仕事にされていました。その後、小田原研究所に移られて、農薬の効能等の研究・開発をされ、現在に至っております。

小田原研究所は創薬合成研究、生物研究、安全性研究の 3 分野を軸に、実験圃場として榛原フィールドリサーチセンター、磐梯フィールドリサーチステーション、フランス・JAS 試験圃場をおさめる総合研究所として 1974 年に現在の場所（JR 東海道線の国府津駅からバスで 10 分ほどの場所）に設立されました。最近では、会社の前に大型スーパーもでき便利になったそうです。しかし、そのスーパーが建ってしまったことによって会社の上階から見えていた富士山が今では見えなくなってしまうという笑い話もありました。敷地の周り是一般の住民の方も多いため排ガス等にはとても気を配られているそうです。

■農薬開発

近年の農薬開発には、「長期化（安全性を確保するための基準が高い）」、「多国籍化学メーカーの合併（競合相手の変化）」、「世界的には、需要は増えているが日本は低迷」という特徴があるそうです。日本の農薬メーカーは新しい化合物を見つけ出す数は多いが、なかなか表には出ません。メーカーによっても専門が異なり、文化が違い、会社どうしがくっつくことが難しいのが現状のようです。世界を相手にして競争していくには、ここに大きな課題があるという状況です。

■OB（阿達さん）との交流会での会話

・普段はどんな仕事をされているのか。

会社の門が開くのは午前 7 時。もっと早くしてほしいとの要望もでているそうです。だいたいの方は 9 時に業務を開始。内容は実験をしたり、論文を読んだりと有機合成の研究室が普段大学で行っているようなこと。12 時から 1 時間が休憩。食事後は運動に励む社員の方も多そう。実際私たち学生が訪問を終え帰る時にはキャッチボールをしていた方を何人か見かけました。午後 5 時 30 分が定時だそうですが、ちょうどに帰る人は少なく、午後 9 時までにはほとんどの人が帰宅の途につくそうです。

・仕事に対する姿勢。

「自分で考える」、「自分自身で夢をもって仕事をする」、「使命感を忘れない」、阿達さんがおっしゃっていたこれらの言葉が印象的でした。阿達さんの場合、大学時代に学ばれた技術や知識が活かされそうな場面が多くあり、実際に自分の力を発揮することができたということでした。その結果、入社してからも大学でやられていたことと同じようなことをされて、当時はとても楽しかったそうです。所長になられた現在とはいうと、「責任感が増し、対人関係の仕事が多いので疲れる毎日ですね」と笑顔でコメントされていました。

・仕事のできる人とできない人について。

「上司と仕事をして、上司の言うことを聞いているだけでは $1+1=1.5$ くらいの効果しかない。上司は違う意見も求めているわけだから、 $1+1=2$ に

しなくては意味がない」ということで、人から言われたことをやるだけではだめで、「自分の考え」を出せるかどうかによるということでした。

・「ここだけは他社に負けない」

トップジン M (殺菌剤の商品名) : 40年近く世界トップシェアを誇る商品。

・グローバル化社会で生き残っていくために必要なことについて。

グローバルな社会で生きていくには当然、英語が重要となってくるということでした。出張すればもちろん英語でコミュニケーションをとり、時には日本にいながらも電話でのやりとりを英語でしたりするそうです。

世界で生き残っていくために重要なもう一つの点は、新しい化合物をつくり続け、商品に繋がるような化合物を見出すことということでした。

■ OB 訪問後の参加した学生の感想

・今研究室で行っている実験、実験操作、考え方、アプローチの仕方が活かせるのだとわかり、現在行っている実験にやる気が出た。企業でどのようなことをやっているのかわかるので将来へどう進めばよいか、今やっていることが間違っていないかがわかったので何をすればいいのかがはっきりしたので良い企画であると感じた。

・OB と話すことで現在行っている研究が今後どのように活かされていくのかについて、具体的なイ

メージを持つことが出来た。それに伴い、現在取り組んでいる研究への意欲を強く持つようになった。今後もこのような機会を2社だけでなく、より増やしてもらいたい。

・自分の経験を活かせるような企業・仕事に就けると、働くことが自分にとって有意義な仕事になるものなんだと感じました。近年の研究姿勢として有望な物質を合成できることが稀な上、基準が厳しくなっていることを考えると、長期に渡るため、やる気が要求される仕事だと思いました。OB 訪問は、研究者に直接、仕事のやりがいや気持ちについて聞ける非常に良い機会だと思います。

・研究開発が息の長いものであること、あまり女性をとらないことの原因がわかってよかった。転職が当然ながら個人のライフスタイルというより、会社の適材適所に基づくものだとわかった。このようなことが実感できたことで、就活や将来について考える上で、どのようなことを考えていけばいいか見えてきたので、大変有意義な訪問だった。

■最後に

この場をお借りして、改めて今回の訪問のためにわざわざ時間を割いていただいたOBの阿達さんをはじめ、いろいろと温かいおもてなしをくださった小田原研究所の社員の方々に御礼申し上げます。



JT たばこ中央研究所

学生役員 小林 優美

JT たばこ中央研究所訪問者

- ・畔柳 歩大／本田研究室
- ・石井 駿太／渡邊・獨古研究室
- ・石川 哲也／上田研究室
- ・小林 優美／渡邊・獨古研究室 (学生役員)
- ・重田安里寿／内藤研究室
- ・白石奈々恵／本田研究室
- ・田郡 大隆／本田研究室
- ・時村 隼人／上田研究室
- ・中澤 駿忠／渡邊・獨古研究室

2012年7月13日、日本たばこ産業(株)たばこ中央研究所の見学とOBである永田久徳先輩(平成4年修士卒)、佐藤慎介先輩(平成13年博士卒)、永井敦先輩(平成18年修士卒)、知久綾子先輩(平成19年修士卒)、真杉恵梨先輩(平成23年修士卒)、桜庭和沙先輩(平成24年修士卒)の計6名と懇談をさせていただきました。

見学の内容ですが、まずR&D企画部の黒木さんから会社の歴史や現在の展開状況、JTたばこ産業が目指すものといった説明をしていただきました。日本たばこ産業(株)は1999年にRJRナビスコ社(米)、2007年にギャラハー社(英)とM&Aをおこない、急速なグローバル展開を遂げています。広告などでよく目にする「ひろえば街が好きになる運動」、マナー啓発活動など、一見売上に直接つながる活動ではありません。しかし、嗜好品であるからこそたばこを吸う人と吸わない人の協調ある共存を目指しており、会社の指針、方向性が非常によく伝わってきました。その後、永田さんの案内のもと研究所内の見学を行いました。たばこの燃焼状態を一定にするために二重扉内で温度と湿度が管理されている部屋があり、また精密な分析機器がずらりと並んでいて大学と企業の研究の規模の違いに圧倒されました。たった一本のたばこに非常に高度で様々な技術が詰め込まれていることに驚きを隠せません。こういった研究背景があつてこそ、品質に自信をもてるのだと納得できる内容でした。

見学の後、黒木さんから「正しい会社の選び方」という講演をしていただいた後、OBの方々とは合流し懇談を行いました。永田さん、黒木さんをはじめ、OBの方々が一気さくに話してくださったおかげで、

学生側も打ち解けて活発な意見交換が進みました。

■就職先を選ぶ際に何に重点をおくべきか

就職は結婚に例えられます。エントリーシートでお見合いをして、就活でデートを重ね、内定で婚約が決まります。しかし、就職(=結婚)が決まったとしても相性がよくなければ続きません。では相性がよい、自分に合っている会社とはどのような会社でしょうか。それは自分で考え、自分で行動し、良い結果が出て、おもしろいと感じることができるかどうかで決まります。自分で頑張るからこそ力がつき、おもしろいと感じることができるのです。入社5年以上の社風に染まった社員3人に会ってコミュニケーションすればその会社の社風は感じることができます。HPだけでなく、ぜひ社員に会って会話のキャッチボールをしてください。自分の足で稼いで、いろいろな会社の社風を感じる機会を作りましょう。

今回お会いしたOBの先輩方は話をしていると、自分の仕事に責任ややりがいをもってると強く感じました。また、今回のOB訪問で社員の方と接することによって日本たばこ産業(株)の社風を肌で感じた学生は多いのではないのでしょうか。

■就活を前に今、何をするべきか

ずばり、「本質を見抜く力」をつけることです。どんな内容についてでもいい、ぶれない自分の納得解を持つことでぶれない自分を構築することができます。またその納得解は他人とコミュニケーションをとって変化、進化させることでより強固なものになります。その考える力を育てることができれば社会人と本気のコミュニケーションをとることができ、会話を成立させることが可能です。そういった力をもつ学生を会社は求めています。

学生の間にも本当に身につけなければならないことは何か、心にしみるお言葉でした。

■英語について

グローバル化が進む昨今、英語は必須です。海外にも研究所を持つため打ち合わせをする機会が多いため、英語はなくてはならないツールです。

■日々勉強

会社に入ってまず大変だったことは配属された自分の分野を一から勉強しなければならなかったことです。大学でたばこを研究しているところはないでしょう。だからこそ、これから就活を行う学生に対しては様々な分野に開けた企業であるといえるのですが、学生の頃苦手としていた分野でも、とことん勉強することでおもしろいと感じることができるようになりました。乗り越えたからこそおもしろいにつながるのでしょう。

■OB訪問を終えて

今回のOB訪問では学生側からも活発な意見がとびかい、非常に充実した内容となりました。懇談の後に懇親会も開いてくださり、OBと学生の距離がより一層近くなった感じがします。また、今年はOB訪問に対する希望者が多かったため日本曹達と

日本たばこ産業(株)の2社の訪問となりましたが、幅広い交流をもつことができ好評でした。

- ・JTという企業の魅力がよく伝わるような企業訪問でした。また、就職活動の話もOBの方から聞くことができたのでためになりました。
- ・実際に企業で働いている方とお話することで将来に対するイメージを強めることが出来ました。またこのような機会があれば参加してみたいです。
- ・前回訪問した日本曹達と比較でき、複数社訪問した意味がありました。また今回は、多くのOB/OGの方とお話する機会に恵まれ、様々な話を聞いて良かったです。研究所見学や会社の選び方の話なども聞いて為になりました。
- ・HPをみただけではわからなかった会社の雰囲気を感じることができ、とても有意義なものとなりました。

神奈川県産業技術センター

物質工学科化学コース4年 中屋敷祐也

神奈川県産業技術センター訪問者

- ・北出 哲史/横山幸男研究室
- ・鳥井 秀治/横山幸男研究室
- ・中屋敷祐也/迫村研究室

7月27日、私たちは海老名市下今泉にある神奈川県産業技術センターを訪問しました。訪問した我々を暖かく迎えてくださったのは、技術支援推進部の深澤宜行さん(昭和46年電化卒)でした。深澤さんは自らの学生時代の体験談を話して聞かせてくださいました。工業高校へ進学後、努力を重ねて大学、社会へと進んだというお話は、我々学生の努力をより一層促すものでした。

深澤さんは更に、我々の研究内容や進路についても耳を傾けてくださいました。一人一人がそれぞれ違った研究テーマを持っているのですが、その一つ一つに真摯に対応し、「こういう論文を調べたらどうか。」「こういった参考書がとっつき易くていいよ。」などと、的確なアドバイスをくださいました。

その知識の広さには驚くばかりでした。特に物理の観点からのアドバイスは、普段あまり馴染みの無い私たちにはとても新鮮なものでした。

産業技術センターについても詳しく説明していただきました。技術相談や依頼試験、そして人材育成が主な活動とのこと。また、大学の学生も卒業研究の為に訪れるそうです。基本理念として、中小企業の技術支援が掲げられていましたが、近年は大企業のお仕事も増えているとのこと。

最後にラボや会議室、ホールなどを見学させていただきました。様々なラボ、そして機器があり、廊下には見学者が分かりやすいようにパネル展示などがありました。とても清潔感があり、整理されていました。上記のように、学生の卒業研究などで利用するケースもあるという本センター、皆さんも何かの折に相談してみたいかがでしょうか。

お忙しい中対応してくださった深澤さん、皆さん、本当にありがとうございました。